

第1章 事業の総括評価

趣 旨
評 価 結 果
総 括 評 価

I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和54年度に開始され、本年度は40回目の実施となった。

本事業は、日本と中国の青年相互の理解と友好の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の理解と友好を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

以上の目的を達成するため、日本及び中国の双方において、国家及び地方行政組織への表敬訪問、テーマを選

定したディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流等、様々なプログラムを実施しており、人的交流の重視を基本としつつ、毎年見直しを行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び中国招へい青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修及び帰国後研修時に、能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

※参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①日本と中国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと中国の人々との相互理解が深まったと思いますか [1- (7)]」との問いに対して、日本参加青年は80%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか [1- (6)]」との問いに対して、中国招へい青年は全員（無回答1名を除く）が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち83%が5（とても深まったと思う）であり、本事業が中国青年の日本人への理解に大きく役立つことが考察できる。

②日本と中国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか [1- (8)]」との問いに対して、日

本参加青年は全員が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか [1- (7)]」との問いに対して、中国招へい青年は全員（無回答1名を除く）が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

③プログラムへの満足度

<日本参加青年>

訪問国プログラムの内容についての全体評価 [2- (1)] は、日本参加青年は全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の5（大変良かった）を付けた日本参加青年は、「地元青年との交流 [2- (4)]」が14名、「ホームステイ [2- (7)]」が12名、「施設訪問 [2- (5)-1]」が5名、「ディスカッション [2- (6)]」が2名であった。

「地元青年との交流」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可） [1- (1)]」との問いに対して、16名の日本青年が「中国の社会事情、文化等に関心があるため」、12名が

「中国の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、日本参加青年は中国の社会事情をよく理解し、友人を作りたいと考えており、中国青年との交流を通じて中国について理解を深められるプログラムが多かったことが一因として考察できる。

<中国招へい青年>

招へいプログラムの内容についての全体評価 [2-(1)] は、中国招へい青年は全員が5段階評価の4(良かった)以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の5(大変良かった)を付けた中国青年は、「岩手県プログラム [2-(5)]」が19名、「沖縄県プログラム [2-(8)]」が18名、「裏千家東京道場訪問 [2-(3)]」が17名、「第40回記念意見交換会 [2-(7)]」が16名、「TBS訪問 [2-(6)]」が15名、「東京農業大学訪問 [2-(4)]」が10名であった。

「地方プログラム」や「裏千家東京道場」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか(複数回答可) [1-(1)]」との問いに対し

て、18名の中国招へい青年が「日本の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、中国招へい青年は日本の地域文化や伝統文化に対して高い関心を抱いており、そのようなプログラムが多かったことが一因として考察できる。

④事業参加による参加青年の将来への影響

<日本参加青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか [1-(10)-1]」との問いに対して、日本参加青年は95%が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち68%が5(とても役立つと思う)であり、本事業が参加青年の将来形成に大きく役立つことが考察できる。

<中国招へい青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか [1-(8)]」との問いに対して、中国招へい青年は全員(無回答1名を除く)が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- 「コミュニケーション能力」については、
3.7から4.7となり、1.0ポイントの増。
- 「異文化に対応する能力」については、
3.9から5.2となり、1.3ポイントの増。
- 「チャレンジ精神」については、
3.9から4.8となり、0.9ポイントの増。
- 「問題解決能力」については、
3.6から4.4となり、0.8ポイントの増。
- 「企画力」については、
2.8から4.1となり、1.3ポイントの増。
- 「マネジメント力」については、
3.2から3.8となり、0.6ポイントの増。
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

伸び幅が最も大きかったのは、「異文化に対応する能力」と「企画力」であった。

「異文化に対応する能力」は、中国において様々な中国青年等との交流やホームステイが用意されており、異文化を直接体験し、向き合う機会が多かったことによるものと思われる。

「企画力」は、自主研修期間中の積極的な事前学習や、訪問国でのプレゼンテーション等の準備をする過程で大きく身についたものと考察できる。

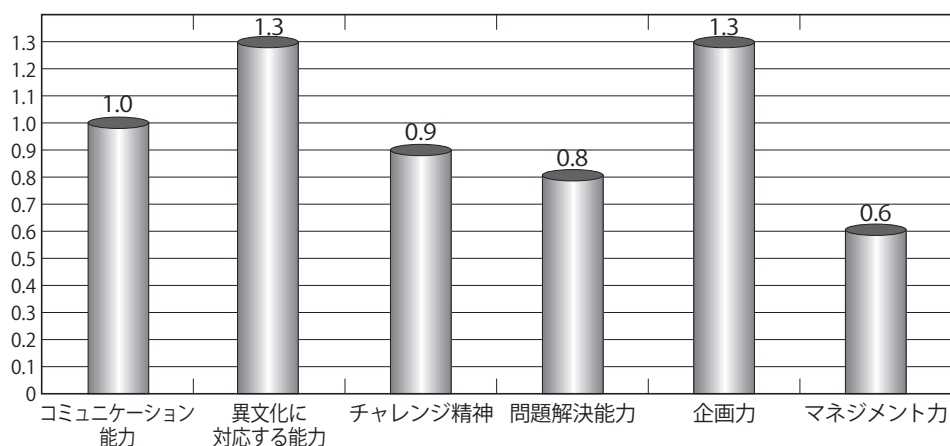
次に伸び幅が多かったのは、「コミュニケーション能力」であった。その理由として、先に述べた現地青年との交流の機会の多さに加えて、日本参加青年同士の密な連絡体制から向上したものと考察できる。

②社会貢献活動への意欲

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか [1-(9)]」との問いに対して、日本参加青年は85%が5段階評価の4(ある程度意欲を持った)以上を付け、高い評価であった。

一方、そのうち5(十分に意欲をもった)を付けたのは24%であり、本事業の参加を通じて社会貢献活動への意欲を大きく向上させるには引き続き検討の余地があると思われる。

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減 (ポイント)



3. 中国招へい青年の成果

①日本に対する印象の変化

「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか [3-(1)]」の問いに対して、中国招へい青年は83%が5段階評価の4 (良くなった) 以上を付け、高い評価であった。また、その他の中国招へい青年は3 (変わらない) を付けており、「良くなったというより、理解が深まった」というコメントからも、漠然としていた日本に対するイメージがより具体的になったのではないかと考察できる。

②事業に参加して得た成果

「この事業からどのような成果を得ましたか (複数回答可) [1-(4)]」の問いに対して、中国招へい青年は30名中28名が「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」を選択し、30名中10名が「中国に誇りを感じるようになった」を選択した。

これらの評価から、事業に参加することで日本に対する理解を深めるだけでなく、異文化理解に触れることで自国を振り返るきっかけになっているのではないかと考察できる。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

<日本参加青年>

「事業全体をどのように総合評価しますか [1-(2)]」との問いに対して、日本参加青年は95%が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、極めて高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業をどのように総合評価しますか [1-(2)]」という問いに対して、中国招へい青年は全員が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、そのうち73%が5 (大変良かった) であり、極めて高い評価であった。

日本参加青年、中国招へい青年共に、5段階評価の4以上の割合が90%を超え、多くの青年が本事業を高く評価していることが分かる。

日本参加青年からは「中国について見聞を広げることができ、新しい中国の形を知ることができた」「観光では絶対に経験することができない、この事業であったからこそ経験できたことがたくさんあった」等のコメントがあった。

また、中国招へい青年からは「プログラム中に日本青年との交流があり、友情を築くことができた」「日本の若者の考え方をたくさん知ることができた」等のコメントがあり、そのような諸点を勘案してみると概ね、日本と中国それぞれにおいて現地青年等との交流活動等の各種プログラムを通じて、両国青年相互の理解と友好の促進を図るとともに、参加青年の成長に良い影響があったものと結論づけられる。

以上、評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と中国の相互理解と友好の促進」に関して、日本参加青年及び中国招へい青年が共に事業参加による効果の認識を示すなど、十分な成果を取れたものと評価できよう。